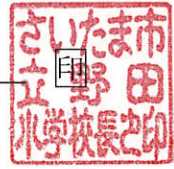


令和3年度 さいたま市立野田小学校 自己評価書

校長 保坂 篤司



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学校課題研究主題「豊かなかかわり合いを通じた 生き生きと学び、伝え合う野田っ子の育成」のために、授業研究を中心とした取組を継続し、確かな学力の定着を図る。
- (2) 不登校・いじめの早期発見・対応するとともに、児童が困ったときなど、気軽に相談できる教育相談の実施、積極的かつ誠実な生徒指導を展開する。
- (3) 豊かな感性を培う農業体験活動、健康教育の推進と児童の体力向上への取組を充実させ、豊かな心とたくましい体の育成を図る。
- (4) 定期的な通学路点検を基にした交通安全指導や一斉下校や避難訓練等の適切な実施により、安全に関する指導の充実を図る。
- (5) 教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮し、業務改善、働き方改革を進める。

2 評価結果について

- (1) 学校では、『『生き生きと学ぶ』授業づくりをしている。』という項目について、保護者の肯定的な回答8ポイント上がり、95%を超えた。ICT機器の効果的な活用、体験的な学習を充実させた成果であると考え。学力・学習状況調査の国語・算数の各項目で市の平均を超えたのは、3分の1であった。無回答率が、どちらの教科も市の平均より4ポイント高いことが課題である。
- (2) 「学校では、悩みやトラブルなどに適切に対応している。」という項目について、保護者からの肯定的な回答が5ポイント上がり、91%になった。教育相談室を開室し、児童や保護者がいつでも相談できる場を整備したことが高い評価につながったと考える。
- (3) 食育に関する項目、健康教育に関する項目については、児童・保護者からの肯定的な回答が95%を超えた。学校農園で収穫した食材を活用した給食、感染症予防のための日々の取組が評価された成果であると考え。
- (4) 「安心・安全」に関する児童・保護者からの肯定的な回答は95%を超えた。通学路の危険箇所について、保護者や教職員で共有したり、危機管理意識を教職員で共有し日々の教育活動に取り組んだりした成果だと考える。
- (5) 教職員からのアイデアを生かし、職員集会を週1回にしたり、学年だよりの内容を見直したり、ICTを活用した欠席遅刻連絡制度を立ち上げたりした。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- 「国語・算数が好き」と肯定的に回答する児童を増やすために、教師主導型の授業を見直し、「分かった、できた」の経験を積み重ねる指導を充実させ、無回答率を下げしていく。
- 危機管理を含む安全に関する研修を充実させ、教職員の資質向上を図っていく。学区が広く、危険箇所も多いため、保護者や地域、関係機関と情報を共有する場を設定し、「安心・安全」を充実させていく。
- 「みんなでつくる みんなの野田小学校」を具現化するために保護者や学校運営協議会の委員からの意見を活かした教育活動を展開し、発信していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。